



ヴォックス音楽吟詠会

61号

会員ニュース

発行 平成26年3月1日
ヴォックス音楽吟詠会
広報委員会

平成25年度
ヴォックス
音楽吟詠会

第三十四回 全国吟詠コンクール決勝大会



平成25年11月3日(祝)
大阪リバーサイドホテル大ホール
近畿地区本部担当

全国の地区本部大会を勝ち抜いた
112名と9組(第6部)の吟者が、
気迫の吟詠を披露しました。



大阪城



文部科学大臣賞は、松村 進さん
(第4部：群馬地区代表)が見事
受賞しました。



この度、ヴォックス音楽吟詠会の三代目の会長に就任するにあたって一言ご挨拶申し上げます。

今回の会長就任の総会は、絶好の晴天に恵まれ、西中国地区本部長本田天水先生のお世話を戴いて、風光明媚な錦帯橋の岩国国際観光ホテルにて開催できましたこと、誠に有難く、本田本部長始め地元の諸先生の御尽力に深く感謝の意を表します。

『竿させど 底ひも知らぬ わだずみの
深き心を 君に見るかな』

ヴォックス会員の心の籠もった友好の輪で会長就任総会と新会長歓迎の懇親会、更には二次会でのカラオケと大いに盛り上がり、この日は私にとって忘れ得ぬ大切な歴史の一頁となりました。ヴォックスの三十四年を振り返りますと、コロムビアレコード邦楽ディレクターの南雲一廣作曲家が一念発起され、束縛のない、流派の持つ、素晴らしい音楽吟詠を心の糧として全国に呼びかけられ、これに賛同された吟詠家によりヴォックス（ギリシャ語で王冠の飾り、声の王様の意）が立ち上がりました。



日中国交十周年での北京大会の功績が功を奏し、第五回のヴォックス全国大会より、レコード吟詠界快挙の『文部科学大臣賞』の受賞が決まりました。そしてフランス、アメリカ、中国南京など各世界大会を成功させた初代会長・南雲一廣作曲家のヴォックスの業績は、日本吟界は言うに及ばず、文化庁及び文部科学省においても良く知られているところです。

また、今日のヴォックスの繁栄は日本の吟界で著名な大井清先生を筆頭に、大野恵造先生、三宅正洲先生、妻木正鱗先生、小林心風先生、清水源翁先生の、何れも今は亡き先達のご活躍があったことを肝に銘じてまいりたいと存じます。

岩淵公胤会長の後をお引き受けすることとなりました愚輩草薙は、発足より事務局に携わってきました経験を踏まえて、名誉あるヴォックスの灯を、信頼するスタッフ・小芝誠範新事務総長を右腕として継承して行く決意でございます。

何卒変わらぬご厚情とご鞭撻をお願い申上げて会長就任のご挨拶とさせていただきます。

会長職辞任のご挨拶 岩淵公胤



『人様のお蔭と感謝を込めて！！』

光陰矢の如し、顧みますとヴォックス発足(昭和52年9月)3年目より、故南雲一廣先生にお誘いを受け、東京地区本部長という大役を仰せつかりました。当時事務総長であられた黒澤吼風先生始め、故清水源翁先生のご指導を頂き、平成20年まで東京地区本部長を務めさせて戴きました。

平成19年5月25日に、南雲一廣会長がご逝去されるという悲しみを味わい、平成19年の総会(旧執行部会)にて会長職(東京地区本部長兼任)に就任致しました。

会長職就任中は事務総長草薙典龍先生共々、全国会員の暖かいご支援・ご協力の下、毎年コンクールを開き、また「名流吟剣詩舞のつどい」を盛大に開催することが出来ました。

平成21年より東京地区本部長の役職を離れましたところ、22年度一杯で東京地区の解散となりました。このことは、会長である私の不徳の致す所であり、責任でもあり、心の痛みとなっております。一昨年の本部長会議の折、会長職辞任の願いを出させて頂きましたが、心ならずも否定されましたが、東京地区解散ということは、私にとっては耐えられないことであります。したがって本年の総会をもって会長職を辞任させて頂きたく、お許しをお願い申し上げます。そして私の後任といたしまして草薙典龍先生を推薦いたします。

心豊かな、心の暖かい人達の集まりであるヴォックス音楽吟詠会の思い出は尽きません。フランス・ニース公演、アメリカ・ロサンゼルス公演等、そして何よりも会員の皆様との交流によって、計り知れない恩恵にあずかりました。感謝！感謝！以外の言葉は見つかりません。心より御礼を申し上げます。

今は亡き南雲先生、大井清先生、妻木正麟先生、三宅正洲先生、清水源翁先生、二代目小林心風先生を始め、多くの先生方にご指導・ご鞭撻を賜りました事は、私にとって生涯忘れる事はありません。改めて御冥福をお祈り申し上げますと共に、ヴォックス音楽吟詠会の発展を見守り下さい。

最後に私の好きな「二度となき人生だから相和して誠の道を励みぞ行かん」の言葉を添え、皆様方のご健勝とヴォックスの繁栄のため、なお一層のご指導を戴けますよう、お願い申し上げます。会長職辞任のご挨拶とさせていただきます。

事務総長就任にあたって 小芝誠範



この度の総会において事務総長に指名されました。もとより、その器でないことは、当人が一番よく承知致しておりますが、皆様のご支援・ご協力をいただきながら草薙典龍先生の片腕として、会員各位のために精一杯頑張る決意です。

三十有余年の歴史に恥じない会を、常に頭の片隅に置きながら、役務に励んでいく所存です。

重ねてのお願いとなりますが、温かいご指導・ご理解をいただきますようお願い申し上げます。



第一部優勝

小林 龍河さん
(播磨地区代表)



「詩吟は楽しい」

ぼくは小学6年生です。
詩吟を始めて三年余りになります。
『詩吟』という言葉だけ聞くと、とてもむずかしく
思いますが、ぼくは歌を歌うことが大好きだったので始めました。

最初、人前で詠うことは、照れてはずかしかったけど、今では、とても楽しく気持ちよく詠うことが出来ます。

今、おけいこで一番だいにしていることは、毎週のおけいこ日に、一吟ごとに素読をすることです。それで、とても上達したように思います。

同じ流派の先生には、いつもお声をかけていただき、お世話になっています。毎週のおけいこは、とても楽しく、一週間の中で、一番好きな時間です。

今回の優勝も、いつも熱心に教えてくださる先生のおかげです。とても感謝しています。

「「寒梅」に想いを込めて」

課題詩「寒梅」。この吟題は第三十回の全国決勝大会へ私を導いてくれた思い出のある詩です。当時の私は、担当師範の先生が示して下さった手本通りに真似て吟じるのが精一杯。詩情も何も剣道で養った声量に頼っていて今から思うと穴があったら入りたい程です。

何か足りへんね・・・担当師範の先生が稽古中に幾度かつぶやく言葉に、何が必要なのか、どこが良くないのか、自問自答しながら技術を補ってきました。そこに巡ってきた第三十四回大会の課題詩一「寒梅」。

近畿地区が担当する大会で、大河ドラマも「八重の桜」が同志社大学設立の頃を舞台としている時期に、この「寒梅」で優勝できたことにホッとしている自分が居ます。

青年の部では優勝かもしれない、けれどそれより上の部ではどうだろう？ 今が本当のスタートなのではないかと身が引きしめる思いでいます。

本当に、ありがとうございました。

第二部優勝

木津 恵美さん
(近畿地区代表)



第三部優勝

布田 まゆみさん
(西中国地区代表)



「思わぬ優勝にびっくり」

詩吟を学んで八年を数え、二度目の全国決勝出場。会場での緊張感を想像するだけでも心落ち着かない日々でした。会場では出場者達が襷掛けの姿で何度も席を立て緊張の様子が伝わってきます。

大会出発前に、本田会長が壮行会で私に「一生懸命吟じて来たならそれでいいんだよ」と会長の大きな瞳から励ましや期待のお言葉が聞こえ、心強く吟じる事が出来ました。結果の発表が聞こえた時「え〜っ…私が？」と優勝の実感が湧きませんでした。今回の優勝は「吟道天水流吟詠会」でご教授頂きました会長を始め、諸先生方、会員の皆様と楽しく吟じ精進できた事につきます。

そしてその結果は皆様方にいくらかの恩返しが出来たのではと安堵しております。振り返れば恩師である田辺先生から、課題吟を戴き、八ヵ月間繰り返し、繰り返し、きめ細やかなご指導の賜物と心より感謝致します。そして応援してくれた娘、出発前に素読を二十回やらされ、出場前には素直に十五回読みましたよ。きつかったけど役に立ったよ。有り難う。そして遠い会場まで応援に来て下さった友人有り難う。次は第4部の仲間入り、これからも初心の心を忘れず継続し学んで参ります。本当に有難うございました。

「気負わずに」

気負わずに、そんな気持ちで臨んだコンクール。24番と早い順番で午前中に終わり、お昼は美味しくいただきました。

その後、5部の方々の吟を聞きながらあと10年、15年とあのよう出来るだろうかと不安と、羨ましさを聞いていたうちにコンクールも終了。そして審査発表となり、部門優勝から発表すると勝手に思っていた私の耳に、文部科学大臣賞4部24番、松村 進さんとアナウンスが。いきなりの発表と感じた私は、確かにそういったよねと、声にならないつぶやきをしていました。文部科学大臣賞杯、賞状をいただきようやく本当の事と実感しました。

最初に今回のプログラムを見たときには途中で埋没か、という思いもありましたが、終わってみると今日は早い出吟でよかった、皆さんの吟を聞いてからだったらきっと気負って失敗していただろうと・・・

私の吟との出会いは、仕事で知り合ったお客様の誘いからです。早くも35年が過ぎました。その間、良き師、良き友、良き生徒に恵まれ、ここまでやって来られました。

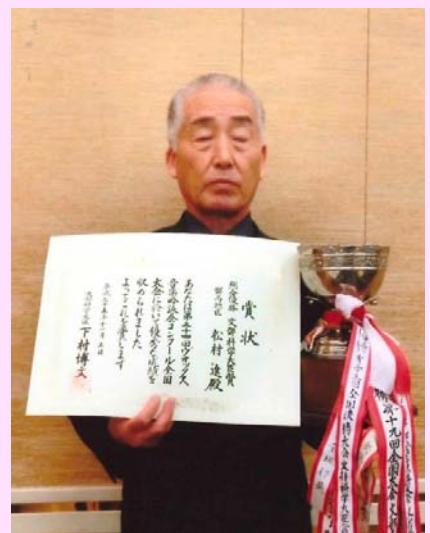
フルタイムで働いているときは思うように活動ができませんでしたが、最近は時間も都合がつくようになり、色々な発表会、大会にも参加できるようになり、生活の半分以上を吟が占めているような感じです。

この受賞を励みにこれからも奥の深い吟の世界を楽しみつつ、次の人たちへつなげられたらと思っています。

第四部優勝

(文部科学大臣賞)

松村 進さん
(群馬地区代表)



第五部優勝

青沼 シズ子さん
(信越地区代表)



「詩吟は生涯の友」

吟と共に歩んで来た30年。初代宗家、恩師、吟友との悲しい別れがあり辛く、心が折れそうになった時、たすけてくれたのも詩吟でした。

始めた切っ掛けは、先輩の吟を聴いた時、私もやってみたく、素直に思いました。いろいろ不安もありましたが続けてきてよかったです。作者の詩を詠んだ時代と、その時の心情に思いを巡らせどうしたら表現できるか、奥が深く悩みは尽きませんが、好きだからこそ続けてこれたし、生涯の目標として精進してまいります。

ヴォックス音楽吟詠会で、アメリカ公演に参加させていただき、今は亡き南雲先生と、ご一緒の時間を過ごさせていただいたこと、誇りです。大きな会場で、詩吟の発表もでき、忘れられない思い出になりました。今も現宗家、諸先生、先輩のご指導をいただき、やっと優勝できました。長かったです。感謝の気持ちでいっぱいです。

ヴォックス音楽吟詠会のご発展を心からお祈り申し上げます。ありがとうございました。

「おかげさまで優勝させて頂きました」

この度の第六部（合吟の部）に私達は初めて参加させていただきました。私達は遷宮で賑わう伊勢市に所在しています。初めての参加、突然の優勝にただただびっくりしています。

練習時にはみんなでお菓子、飲み物を持ち寄り、おしゃべりあり、笑いありの中で五人の一体感を養ってきました。入場の仕方、出だしの一声に酒徳会長の激が飛びます。教えられた通りに出来ると「そうそう」と満面の笑みで私達に安心を与えてくれます。

当日私達の読みくだしが他派と違うことがずーと気になっていました。練習して来たことを精いっぱい出し切る。ただそれだけしかありません。初めてだからこそ何も知らない。他派への意識もない。この「無」の心が吟に出せたのでしょうか、大変うれしい、喜びの結果を頂きました。

ご指導して下さいました先生方、私達を押し出して下さった会員さんの力を信じ来年、再来年と目標を持って楽しく吟を伝えてゆきたいと思っております。皆さんありがとうございました。

第六部優勝

西村 つや子さん
永井 久恵さん
大原 チヅ子さん
加藤 公子さん
中川 孝子さん
(中部地区代表)



平成25年度
第三十四回

全国決勝大会風景

平成25年11月3日(祝)
大阪リバーサイドホテル大ホール



大会会長 草薙典龍先生



大会委員長
岡田岳龍先生



(審査委員の先生方)
お疲れ様でした。
ありがとうございました。



優勝者に贈られるトロフィー
とタテ 一体誰の手に!?



大会会場
(熱気ムンムン)



(尺八伴奏の先生方)
本当にありがとうございました。



(司会のお二人)
真剣です



(奨励賞受賞の方々)
おめでとうございます。





雑記…

地球温暖化も年々厳しさを増して来るのか、今年は特に気温の上昇が34度を上回り猛烈な豪雨による土砂災害、鉄道の線路が洗われての脱線事故、熱中症に因る死者の多発、等々数え切れない異常事態が連日起きている今日この頃です。つい自分の身の安全を重視してか家に引き籠りがちになり、外出（特に旅行等）することもめつきり少なくなり自然に接しての季節感も乏しくなる一方なので、八月五日思い切って乗鞍の温泉宿へと出掛けてみましたが、生憎お天気も曇りで景色を楽しむことが出来ず、遂にどしゃぶりの雨に見舞われ、何と見窄らしい事かと意気消沈した次第です。

翌八月六日朝から山は曇り、いつその事帰宅しようかと宿を辞して島々まで下って来ましたが、“日本海の魚が食べたい”と言い出したので思い切って小谷村溪谷を經由して糸魚川へと向かいました。

天気の方も徐々に晴れ間が多くなり、久しぶりの海の匂いを感じながら細い道を漁港へと進みましたところ、何と道路に駐車している車は列を成し、大勢の人達が急ぎ足で海辺の方へと向かう姿が見えたので、これは何か有るなと思い自分たちも防波堤の切れた所から漁港の方を覗き込んだところ、丁度帆船日本丸が出航準備のところでした。思い掛けない幸運に出会い胸のときめきを感じたひと時でした。

船は二隻のタグボートにより前後の向きを変え沖へと出帆しましたが、目の当たりに見た作業の光景は感動の一語に尽きるものでした。昔何度も通った海岸線を帰路とし、いつまでも一碧の日本海に浮かぶ日本丸を遠く望むことが出来た楽しみは、更なる周遊の気力を天は与えてくれたものと感謝する次第であります。

『漢詩』

小谷 經由 而 到 糸魚川 見 帆船 日本丸

溪聲 爾後 到 灣頭
麗雅 須臾 鷗 渚 去
昔 尋 肆 店 昌 沿 岸
猛 暑 陵 夷 立 秋 入
平 成 二 十 五 年 葵 巳 八 月 六 日
金 婚 從 此 更 周 遊
（清風）
（下平声十一尤韻）
片倉 清 彭 作

『訓読』

けいせい じご わんとう いた
が ん み はんせん かいしゅう
眼に 見る 帆船を して 曳艘せしむを
麗雅 須臾にして 鷗渚を 去る
てんぷう しゃく を 飛ばして 大瀛に 浮かぶ
天風に 錫を 飛ばして 大瀛に 浮かぶ
むかしたず してん きし そ
昔 尋ぬ 肆店 岸に 沿って 昌ん なり
きんしゃ ぼうかんぎよかいゆう
今者 傍観す 魚介の 優なるを
もうしより 傍観す 魚介の 優なるを
猛暑 陵夷して 立秋に入る
金婚 此れ 従り 更に 周遊せん

[語釈]

溪声—小谷村溪谷の水音。
爾後—それからのち。
灣頭—灣のほとり。入り江の岸。
眼看—目の当たりに看る。
教—…をして…せしむ。
曳艘—タグボート。引き舟。
麗雅—美しくてみやびやか。
日本丸のこと。
天風—天上より吹く風。
飛錫—錫は錫杖。僧侶や道士などの用いるつえ。昔、高僧が錫杖を飛ばして空中を行ったという故事がある。
〔王守仁・海に泛ぶ〕。
陵夷—物事がしだいにおとろえすたれること。
金婚—作者夫婦。



第四回定時総会が開催されました



草薙典龍会長の挨拶



小芝誠範事務総長の挨拶



本田天水先生の挨拶



花束贈呈



花束贈呈



全員で「ヴォックス之詩」の合吟

平成25年3月14日(木)岩国国際観光ホテルにおいて、第四回定時総会が開催されました。本年度より、岩淵公胤先生が会長を辞任され、第三代会長として草薙典龍先生が就任されました。そして新事務総長として小芝誠範先生が就任されました。「ニューヴォックス」に期待しましょう！



第四回定時総会後の懇親会

定時総会后、同ホテルにて懇親会が開かれ、本田天水先生の乾杯の音頭で始まりました。



平成二十六年 度 第五回定時総会開催にあたって 群馬地区本部長 国分国壮

標記の総会を群馬地区本部が担当することになりました。
11月28日、会長の草薙先生と事務総長の小芝先生が群馬地区に来られ、会場であるホテルの担当者と細部打ち合わせを実施、概要次の通り調整しました。



1. 総会の日時:平成26年3月18日(火)
受付 13時
総会 14時～16時 丹頂の間
懇親会 16時～18時 白鷺の間
2. 場所:ホテルメトロポリタン高崎
3. 住所:高崎市八島町222番地
4. 電話:直通027-326-7982
5. 会費:宿泊者 15000円 日帰り10000円



全国地区本部長会議が開催されました



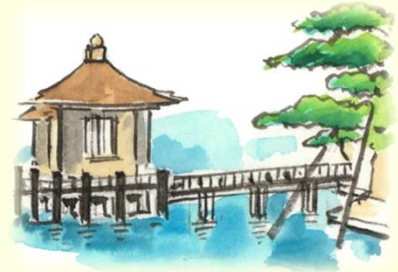
平成25年11月4日(月)、大阪リバーサイドホテルにて、全国地区本部長会議が開催されました。
草薙典龍会長、小芝誠範事務総長ほか、各地区本部長及び事務総局スタッフが参集し、ヴォックス音楽吟詠会の今後の運営などについて熱心に討議しました。



平成26年度 吟詠コンクール 課題吟



- | | |
|--------------|---------|
| 1. 涼州詞 | 王 翰 |
| 2. 峨眉山月の歌 | 李 白 |
| 3. 富士山 | 石川丈山 |
| 4. 春日山懐古 | 大槻磐溪 |
| 5. 胡隱君を尋ぬ | 高 啓 |
| 6. 弘道館に梅花を賞す | 徳川景山 |
| 7. 富嶽 | 乃木希典 |
| 8. 山行同志に示す | 草場佩川 |
| 9. 酒に対す | 白 居易 |
| 10. 日本刀を詠ず | 徳川光圀 |
| 11. 竹里館 | 王 維 |
| 12. 赤馬が関舟中の作 | 伊形靈雨 |
| 13. 和歌・俳句 | ※自作を除く※ |



平成26年度 第三十五回全国決勝大会



平成26年10月12日(日)9時より 中部地区担当(場所未定)



CD発売



平成25年度全国決勝大会 優勝者及び
準優勝者吟詠(第一部、第二部除く)
平成24年度決勝大会優勝者吟詠集 ¥2,500
お買い求めは・各地区本部事務局へ



ヴォックス音楽吟詠会 ホームページご案内



<http://www.vox-ginei.com>
活動記録・組織・記事等をご覧くださいことができます。

